

会報

SHINSHIYOU

神私幼

平成26年3月1日

第187号

(昭和29年7月10日創刊)

発行：公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会

発行人：会長 渡邊 真一

編集人：神私幼総務部(広報室)

発行：年4回(6月・9月・12月・3月)

発行部数：1700部

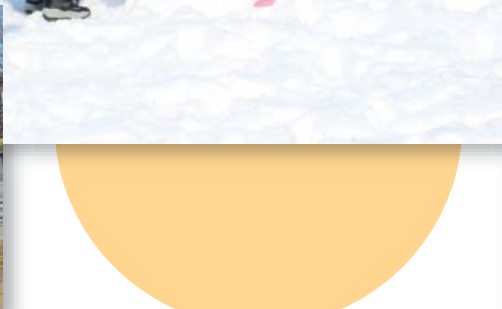
<http://www.shinshiyou.com>

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F

TEL. 045 (440) 3210 FAX. 045 (440) 3209



公益社団法人 神奈川県私立幼稚園連合会



INDEX

2

会長挨拶

県連の二年間を振り返って

●幼稚園連合会会長 渡邊 真一

3

事業部長・室長のことは

総務部長／振興部長／研修事業部長／研究部長／
経営管理部長／財務室長／広報室長

5

6

12協会長に聞く

2年間を振り返って

公益社団法人横浜市幼稚園協会／公益社団法人川崎市幼稚園協会／
横須賀市私立幼稚園協会／特定非営利活動法人藤沢市私立幼稚園協会／
鎌倉私立幼稚園協会／茅ヶ崎市私立幼稚園協会／湘央地区私立幼稚園協会／
小田原私立幼稚園協会／相和私立幼稚園協会／一般社団法人相模原市幼稚園協会／
逗葉私立幼稚園協会／厚木地区私立幼稚園協会

10

研修事業部・研究部活動報告

連続研修会「園内研修」報告

公開保育コーディネーター養成講座を終えて

11

平成26年度私学振興費の概要について

法律相談事業報告とお知らせ

平成25年度教育相談事業報告

12

研修会報告

平成25年度教育経営研修会報告

平成25年度後継者育成研修会報告

会長挨拶

県連の二年間を振り返って



県連協会 会長 渡邊 眞一

間もなく平成二十四・二十五年度の役員任期の満了を迎えます。振り返ると今期は、公益法人制度改革への対応と県連組織の見直し、関東地区教員研修神奈川大会の開催、そして国の「子ども・子育て関連三法」への対応と、三つの大きな課題を中心に連合会が一つになって事業展開に取り組んできました。以下、この二年間を振り返ってみます。

一、公益社団となる

平成十八年に公益法人制度改革が提唱されて以来、連合会が公益性の高い事業展開を核とした団体に生まれかわろうと、公益法人制度改革対策検討委員会を設置し、小澤副会長を中心に精力的な検討会議を重ね、平成二十五年三月、当局から正式な承認をいただきました。

国の方針とはいえ先輩のご苦労と先見性のなかで生まれた「社団法人」の歴史に幕を閉じることに一抹のさびし

さを覚えるとともに、次世代に連合会の歴史をバトンタッチできたかな…と万感の思いを込めてお礼を申し上げます。運営課題は山積ですが、はじめの一步を大切に次期役員の皆さまにがんばってほしいと念じます。

二、国と県当局の動き

政権交代という歴史的な出来事がありました。そのなかにあつて「幼児教育の無償化」と「子ども・子育て関連三法」は、今までにない変革でした。

幼児教育の無償化は「就園奨励補助金」制度を活用し、平成二十六年から保護者負担軽減の第一歩がスタートします。幼保負担格差解消への第一歩ともいえます。

さて平成二十七年からはまる子育て支援制度(認定こども園制度)は、平成の大改革であり、明治九年以来の長い幼稚園教育の歴史からの大転換となりそうです。県当局も制度改革の窓口で「次世代育成部次世代育成課」を設け、平成二十五年九月から「子ども・子育て会議」を発足させ、県内市町村事業の推進をはかる役割を担っています。平成二十六年六月頃には国が示す認定子ども園を目指すのか否かという選択が求められます。これから先の自園の在り方の選択でもあります。

一方県当局は、平成二十五年に本庁機関再編をし、幼保の窓口の一本化のために県民局次世代育成部を設け、「次世代育成課」と「私学振興課(学事振興課からの名称変更)」の体制となりました。

またこの二年間の私学振興費は、他校種が前年度比を下回るなか、私立幼稚園は前年比微増と、厳しい県財源のなかでのご配慮でした。来年度以降もよろしくお願いしたいと念ずるところです。

三、関東地区教員研修神奈川大会と第五十三回神奈川県私立幼稚園教育研究全県大会

研修事業部・研究部の先生方には頭が下がります。〃研究の神奈川〃の伝統と、質の高い保育を求めて取りくむ日々の活動を、この二大会に生かしつつ、十二協会の活動にも目を向けねばならないこの二年間の研究事業でした。研究・研鑽を深めることは教員の資質の向上と、教育内容の充実につながる大切な活動です。研究・研修事業内容が年々多岐にわたるなか、時代の変化に対応しながらの活動を今後も考えつつつけてほしいと強く念じます。

結びに今期は連合会が公益法人に組織替えしたこと、そして国が「子ども・子育て関連三法」を法律として定めたことから、今後の幼稚園教育の在り方と方向が問われる、いわば大きな転換期に直面した二年間であったと振り返るところです。加盟園の先生方をはじめとして、協会長、理事、運営委員、各部の先生方、そして私を支えてくださいました副会長、各部・室・次長、そして事務局員の皆さんに感謝を申し上げます。今期のまとめとさせていただきます。

事業部長・室長の

ことば

総務部

新たなスタート



総務部長 安西 透

前部長の「総務は事務屋に徹すべし」という言葉を目標にこの二年間努めてまいりましたが、二年間を振り返って改めて総務部長の責務の重さを感じました。総務部の先生方には二年間本当に助けていただきました。心より感謝いたします。

一年目前半は、前年度から計画が進められていた、関東地区教員研修神奈川大会の八月開催に向け、準備から大会当日まで忙しい日々でした。県内の沢山の園長・設置者の先生方をはじめ、教職員の先生方にまでご協力いただき

振興部

振興部活動ご協力ありがとうございました



振興部長 武藤 保之

「子ども・子育て関連三法」が成立し早二年近くになり、具体的な内容が

示されました。しかし、まだまだ内容が幼稚園教育と「養育」の価値観が違い、運用の仕組みも不十分であり、幼稚園にとっては問題山積です。今年度はこの問題で振り返られました。来年度中に認定こども園、給付型の幼稚園、今迄のままの幼稚園等に決めなければなりません。未だに選択の情報が少ないために、多く悩んでいる方が多いと思います。私たちは、私学の独自性、建学の精神を十分に確保し、子どもたちや親にとって最良の形、そして園の運営面等をしっかりと担保できるか、決めかねる課題が多くあり、これらの問題が十分に解決できる方向性が早く見つかる事を願っております。幼稚園教育の必要性、重要性などおろそかに出来ないと考えます。しかし全体的な国の方向性は女性の雇用が優先で、その為の受け皿的な施設を考え、子どもの教育など考えておらず他人に預けてしまう考えです。子どもが親の愛情と温もりの中で思いやりがあり、強く逞しく育つためには一日四時間の幼稚園教育と家庭教育を組み合わせる子育てが重要だと思っています。その為に県連合会は一致団結し、将来の国の力になる子どもたちの教育に努力を致したいと思います。二年間にわたる振興部の活動に対してご協力くださいまして誠にありがとうございます。

研修事業部

2年間の研修事業を振り返って



研修事業部長 岩本 勉

平成二十四年度から研究部と研修事業部に分かれて、それぞれの事業を担当することになりました。

今、まさに幼稚園教育のレーゾンデートルが問われています。各園が日々の実践に即した園内研修を積み重ね、その教育力を高めていくことが必要です。日々、子どもに寄り添い、子どもとの生活を紡いでいくなかで、保育者は子どもたちからたくさんことを学び、保育者自身もまた成長していく存在であります。保育者には目の前の子ども理解と指導の手立てを深めていくことが、常に求められています。

研修事業部の役割はそうした保育者のサポーターとなることだと考えています。上原文先生の「統合保育基礎講座」には毎年、多くの先生方が受講されています。教員免許状更新講習は開講する大学が減少するなか、できるだけ多くの受講機会を用意することを主

眼に取り組みました。平成二十五年度には従来の県連、横浜、川崎、相模原の各協会に加え、湘央地区でも開催されました。自園の保育を振り返り、園内研修の活性化を図る講座も多く取り入れました。刑部育子先生、岡健先生の講習会はワークショップ形式で行いましたが、参加された先生方は積極的に課題に取り組んでいました。

これからの幼稚園教育のさらなる発展は教師一人一人の資質向上に向けた取り組みにかかっています。皆さんのご理解と積極的な講習会への参加を切にお願いいたします。

最後に、大澤研修事業部担当副会長はじめ、山田次長、三〇名の部員の先生方の熱意とご尽力に心より感謝申し上げます。

研究部

研究・研修とは
“保育する心を
磨き高める場”



研究部長
亀ヶ谷 忠 宏

この二年の間に立て続けに関東地区教員研修神奈川大会と五年に一度の全

力いただいた、部員各位に感謝申し上げますと共に、来年度もより充実した経営管理部となるよう、設置者園長先生方をお願いいたします。

財務室

収支の
バランスを
適正に



財務室長
渡 井 和 佳

公益法人会計による財務処理も徐々に軌道に乗ってきました。予算・決算等にかかわる財務諸表の整理も進み、分かりやすく表現するよう、合理化の努力を続けています。

会館取得の経済効果をはじめ、事業の見直しや合理化など各部の努力で毎年財務内容が改善されているのは喜ばしいことです。

会館取得目的の協力は返済方法を変更して、早期に返済することが承認され、この二年間で全額を協力二団体へ返済することができました。

今後も家賃収入は毎年約一〇〇万円計上されていきます。また、これまで協力金返済積立金として計上されて

県大会という大きな事業が行われ、部員はじめ関係して頂いた先生方には大変ご苦労をお掛けしました。また、例年の基本となる事業として県下十二協会の研究・研修活動の支援をしながら、県連研究部独自の活動として研究特別委員会A部会「幼児理解」、B部会「環境」や若手後継者のための保育勉強会等を着実に行ってきました。さらに、県主催の新規採用教員研修会、教育課程理解推進事業等の対外的な研究・研修事業や全日の幼児教育実践学会等の対外的な研究・研修事業に積極的に参加協力してきました。

八年間、研究部の部長をさせていただき振り返ってみると、あらためて保育現場の最前線に立つ先生方にとって研究・研修がもたらす意味や役割の大きさを実感しています。ご参加の先生方には遠方からおこし頂いたり、夜に掛けての研究会や土曜日の研修だったりと、その参加意欲や熱心な姿勢にいつも頭が下がる思いでした。つくづく研究会・研修会は、保育の専門的な能力を向上させる以上に「保育する心を磨き高める場」でもあると感じます。そこで何よりも大切だと感じるのは、講師の先生はじめスタッフの先生方が発する、保育や研究・研修に対する熱意や真摯な姿勢で、それに参加の先生方も刺激され揺り動かされ、あこがれの気持ちが湧いてくるのだと思います。

きた予算が不要となり、支出は減少します。財務状況の安定は望ましいことではありますが、新たに不安な要素も出てきました。次年度、加盟園に在園する園児数が大幅に減少することが分かっています。少子化の問題だけでなく、他にも要因があると思われますが、今後同じような園児減少が続くとすれば、収入減は明らかで、何らかの効果的な対策を検討しなければなりません。収支のバランスが取れてはじめて健全な公益法人としての県連合会の活動が維持できるということを改めて感じています。

広報室

広報室活動を
振り返って



広報室長
川 崎 永

平成二十五年度の会報もこの一八七号をもって終了となります。原稿依頼を快くお引き受けしていただいた県連渡邊眞一会長をはじめ、副会長の先生方や各役員の先生方、そして各地区協会長の先生方に会員の皆様、本当にあ

そこでいつも思い出されるのが、齋藤孝さんの言葉です。「新しい世界にあこがれ、燃えて学んでいる人は、魅力を放っている。その人の『あこがれ力』に触発された人は、自分も学びたくなる。教育の基本は、学び合い刺激し合う友情関係だ。」

平成二十四・二十五年度も充実した研究部活動を締めくくることが出来ました。これも各園の園長先生はじめご参加の先生方、そして部員の先生方のご協力と努力の賜と心より感謝申し上げます。

経営管理部

経営管理部の
活動を
振り返って



経営管理部長
山 本 安 雄

今年度も経営管理部の主な活動は、就職相談会と後継者講座の二点だけでした。就職相談会は七月に行い、例年より多い参加者がいて、僅かではあったかもしれないが、私立幼稚園への就職希望者の意識の改革に役立ったのではないかと思ってます。その後、二月

りがとうございました。また、広報室活動を通して室員の先生方の県連発展に対する真摯な姿勢に触れることができたことも大きな収穫となりました。改めて感謝いたします。

さて、この会報の基本的な方針は、県連加盟園と関連団体の方々に見えるだけその方針や活動内容を具体的に伝えること、そして各地区協会の考え方や動きをお知らせしながら、情報の共有化を図ることにあり、年四回の発行を行っています。

この二年間を通して、平成二十七年四月施行の「子ども・子育て支援新制度」に関連するこれまでの動きを各先生方の協力によりお知らせすることが

初めの後継者講座を開催するまでは、ヒマ。とはいえ、その間も月に一回程度の部会を開催し、教職員確保、労働問題、新制度等々多岐にわたってお互いの情報交換が行われて、それなりに実のある部会が開催できたと思います。また、一〇二条園プロジェクト委員会も、溝渕委員長を中心に一〇二条園に特化した新制度の情報交換・説明会を行い、いまだ混沌としてはいるものの、現時点で提供できる情報をお知らせすることが出来たのではないかと思います。

ただ、個人的に悔やまれる事としては、教職員の正確な人数把握が中途半端に終わったこと、昨年まで続けた各市への就園奨励費の確定額の郵送調査が、制度が複雑になるにつれて、調査フォーマットも複雑になり、今年は諦めてしまったこと等々、反省点も多々ありました。これからは幼児教育の無償化に向けて就園奨励費の充実も予想されるので、この調査はより強力に進める必要があると個人的には思っています。

さらには、このデータ収集の数字的結果ではなく、神奈川県私立幼稚園連合会の名で、各市に回答を求める事そのものが、結果的に神私幼の存在を認識させることに役立ったのではないかと自負しています。

この一年間経営管理部の活動にご協

できました。また、平成二十四年八月パシフィコ横浜での第二十七回関東地区教員研修神奈川大会と平成二十五年八月県民ホールでの第五十二回全県大会では、充実した大会の内容をタイムリーに読みやすく、そして見やすく紹介するために現地取材を中心に編集いたしました。

今後も紙面構成や記事内容などの充実を図り、機関誌としての機能強化を進めながら、県連の充実・発展とともにに会員相互の情報の共有化に寄与できるよう努力をしてまいります。

最後に次年度以降も原稿依頼があることと思います。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

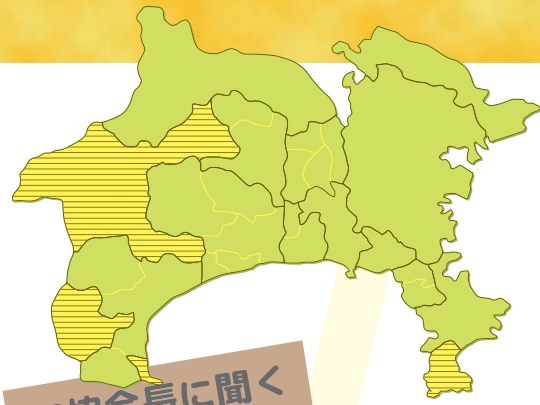
教育相談事業の二年間を振り返って

平成二十五年度の教育相談内容が明らかになりました。集計結果は十一ページに記載がありますのでご参照ください。電話相談が面接の二倍になっていますが、私の印象としては面接相談がずいぶん増えた感じがしています。保護者の方が下のお子さんをお連れだったり、赤ちゃんをだっこしてわざわざ県連までおいでになります。お父さんもうっしょやいます。それだけわが子に対する心配や不安が強いのでしょうか。「こんなこともいいですか?」と多方面にわたる相談をされていかれます。また幼稚園からの相談は「ちょっと気になる子」に関することが多いです。その場合、幼稚園に赴き保育中の子どもを観察しながらアドバイスを行ってきました。しかし「気になる子」が「気にならない普通の子」



教育相談員
鈴木 敦子
(臨床発達心理士)

になるにはたくさんハードルがあります。園の先生方にくつか保育の提案をしています。自分の力不足を実感するところもあります。そんななか、去年上原芳枝先生(NPO法人発達支援機関リソースセンターonno)の講演を聞く機会がありました。ちょっと気になる子に対して早期トレーニングではなく、周囲が早期理解をする必要があり、そのうえでその子の「地雷」を踏ませない、踏まないようにし、安定した成長を促すことが必要だと話していらっしゃいました。今年は先生の著書「発達障害サポートマニュアル」(PHP)を読み込んで私なりの指導を目指します。賛同いただける幼稚園がありましたらぜひ一緒に頑張ってみたいと思います。



12協会長に聞く

2年間を振り返って

早いもので、年度末を迎えました。
今期を県下12協会の協会長に
振り返って頂きました。



公益社団法人
横浜市の幼稚園協会
協会長 木本 茂

横浜市の幼稚園協会（園数二五八園、園児数五三、〇〇〇名）は、平成二十四年四月一日に公益社団法人として新たにスタートしました。従来以上に公益性の高い団体として認められ、さらに重い責務を負うことになりました。横浜市の幼稚園は全て私立のため、横浜市の幼稚園協会が催す研修・研究の役割はたいへん大きく、「横浜市の幼稚園教育の質」を左右すると言っても過言ではありません。従来は、協会加盟園の教職員・保護者のみを対象としていましたが、今後は他の保育施設や一般市民にも門戸を開放し、より開かれた協会を目指すことになりました。

に対する研修会等で最新の情報を得て皆様にお伝え出来た事も、大変有益でありました。

最後に去る二月五日、幼稚園バスが防犯見守り活動を行う「よこすか安全・安心パトロール」の協定を、市長と市内三警察署長との間で締結出来たことは、防犯対策上、園児や保護者の方々をはじめ市民の皆様安全に貢献する事となり本来に良かったと思っています。

各協会長の中では若輩者である私が何とか二年やり通せたのは、皆様からの温かい御支援と御協力のお蔭だと思います。心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



特定非営利活動法人
横浜市の私立幼稚園協会
協会長 青木 敏雄

加盟三十一園のまとめ役として、二期目の任期が終わろうとしています。

この二年、県連並びに藤沢協会の役員各位をはじめ、各地区の諸先生方にご指導並びに多大なるご協力を賜り、多くの「学び」の機会をいただき、この場をお借りし、心より感謝とお礼を申し上げます。

この二年を振り返り、「湘南地区大会」の開催と「新制度」について述べさせていただきます。

た。その意味でも、平成二十六年二月一日に、パシフィコ横浜国立大ホールで開催された「第五十一回横浜市の幼稚園教育研究大会」は、教職員・保護者・保育関係者・一般市民計三、五〇〇名の来場をいただき、まさに公益社団法人らしいオープンな大会となり、今後の目指すべき方向性を確認できました。

さて、平成二十四・二十五年度は「子ども・子育て支援新制度」に振り回された二年だったといえます。そのような中、政令指定都市私立幼稚園団体協議会・横浜大会が平成二十五年七月十一・十二日にみなとみらい地区で開催され、二〇政令市のうち十九都市の私幼団体役員と行政官等延べ七〇〇名が参加し、各都市の行政施策報告と新制度・防災・幼小接続期・子育て支援など、多岐にわたるテーマで意見交換を行いました。多数の加盟園と協会役員の皆様のご参加と一年にわたるご協力に感謝申し上げます。

結びに、平成二十七年四月以降、新幼保連携型認定こども園・幼稚園型認定こども園・施設型給付幼稚園・私学助成の幼稚園と、様々な選択肢の中、各園の再出発後の針路はばらばらでも、「横浜の平成二十四年十一月十四日、五年に一度の湘南地区大会を藤沢市民会館で盛大に開催することができました。被災地東北出身でフリーアナウンサーの生島ヒロシ氏をお迎えし、「言葉のチカラ」絆をテーマに講演をしていただきました。復興支援ソング「花は咲く」の全員合唱による歌声が会館大ホールに響きわたりました。当日は会場に義捐金箱を設け、来場者から頂戴した善意を後日、宮城県県立幼稚園連合会に寄付させていただきました。多くの皆様方の温かい志に感謝申し上げる次第です。

平成二十四年夏に平成の大改革とも思える「子ども・子育て関連三法案」が成立し、幼稚園と保育園の垣根がなくなる。〃私立幼稚園の建学の精神は果たして守り抜くことができるのか。〃少子高齢化が加速する中で、幼稚園が果たすべき役割が変容を求められている。〃そんな不安を絶えず感じながらの二年間でした。給付の財源とされる消費税増税が平成二十六年四月より始まり、そして、いよいよ平成二十七年スタートの新制度への移行の判断を迫られる重要な時を迎えます。超えるためのハードルとしては決して低いものではありませんが、加盟園の皆さまと共に、しっかりと情報をつかみ、熟慮し、決断する。その時期はすぐそこです。各園の一〇年・二〇年の行く末を見つめながらの判断となります。今後とも、より一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

こどもの幸せのために」という共通の思いを大切にして、横浜の幼稚園教育を担ってまいりましょう。

二年間の皆様のご理解ご協力、誠にありがとうございました。



公益社団法人
川崎市の幼稚園協会
協会長 伊藤 夏夫

公益社団法人川崎市幼稚園協会は私立幼稚園八十六園で組織している公益法人です。市内の幼稚園は全園加盟し、約二三、二〇〇名の幼児が在園しています。幼稚園教育の充実・発展のために様々な活動を展開しています。

教員の資質向上のための研究・研修事業を柱として、幼児教育相談室の開設、特別支援教育推進事業、会報及び図書の刊行、定例園長・設置者研修並びに振興活動、さらには父母の会連合会と協力して父母研修事業や教育費保護者負担軽減のための活動に取り組んでいます。

また、二年間を振り返ってみますと、「子ども・子育て支援新制度」の情報収集にあけられていました。情報をいかに早く園長・設置者に、出来る限りわかりやすく伝えるかに苦心しました。この新制度を全園で乗り越えていけるよう願っています。協会加盟園が一致団結して後押しをしていただけたことに感謝しております。



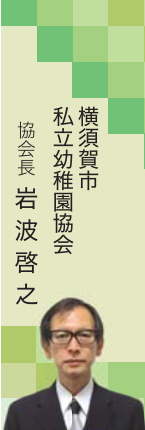
鎌倉私立幼稚園協会
協会長 石井 良一

路の分岐点に立つて

鎌倉市は二十三園の私立幼稚園のみで、協会加盟は二十二園と昔からまとまりの良い団体と感じています。前協会長の言葉にもありましたように、会長関係の役職はきちんと先まで決定している関係で、県連への参加もみな平等に四年間回ってきます。協会の副会長で二年間、会長となり二年間、どの園も県連に四年間参加できるという事が協会にとっても大変良い結果を生んでいると思います。県連にとっては経験のなさで余力にならない点が多かったかもしれません。県連組織に関っていなかった時は、全日・県連・協会と縦の関係がどのように必要なのかはつきりしていなかったところがありました。

この役を通し、他協会の様子や各地区の情報、国や県の対応等、直接聴くことができ、関係の大切さがわかり大変実りある四年間になりました。特にこの二年間は平成二十七年スタートする新制度に向け勉強する事ばかりで、研修は未知のことだらけでした。協会の園長会では県連からの新しい情報をフィードバックし、意見交換が活発に行われ、今後の進路についての話し合いに追われました。決断の時期が迫る中、今後も県連各事業部の先生方からの情報提供や研修会の開催

皆様にささえられて



横須賀市
私立幼稚園協会
協会長 岩波 啓之

「とにかく何とか二年が終わりそうだ。それが今日現在の思いです。」

平成二十四年四月に横須賀の協会長に就任してからの二年間を振り返ってみますと、とにかく「子ども・子育て新制度」に振り回された二年間だったと言えます。だいぶ勉強させていただきました。少しずつ形が見えてきそうですが、依然話を聞くと「そんなことは知らなかった!」という事が続出です。

現在横須賀市においていわゆる「地方版子ども・子育て会議」に出席し、まさに孤軍奮闘といった状況になっていますが、未だ希望の持てる状況にはありません。何とかして子ども達のために横須賀の幼稚園教育を盛りたてつつ、魅力ある就学前教育を実施する事によって、「横須賀が子育て世代に選ばれるまち」にしたいと考えています。そんな中でよかったことは、次期の執行体制の中で、若い世代がイニシアチヴを取り出す兆しが見えてきたことです。今後横須賀協会が継続的に発展していくためには、大変重要なことだと思っています。

個人的には、県連の諸先生方も含め、多くの方々との出会いを通して様々なご指導が受けられた事、また県連の新制度

催宜しく致します。

また、協会加盟園の皆様方には、ご理解ご協力頂き本当にありがとうございます。



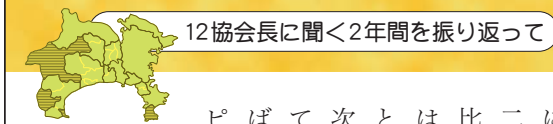
茅ヶ崎市
私立幼稚園協会
協会長 大森 美保子

心を尽くして

茅ヶ崎市は、海や里山に囲まれ、温暖な気候がゆつたりとした生活の文化を生み出している地域です。その中であつて十六園は、建学の精神に基づきそれぞれの環境を生かし、幼稚園教育に取り組み、しっかりと地域に根ざしています。

この度の新制度、幼稚園協会にとりましては強風にあおられ、まさに立ち往生でした。様々な状況を見極め、各園が決断を求められることに、誰からとなく湧き上がった個人の幼稚園という立場ではなく、幼児教育を担う者としての団結力が生まれました。

幼稚園は何のために存在し、何を大切に教育が営まれているのか。「子どもたちを大切に育てていくこと」を丁寧に積み重ねていく日常の主役は子どもたちであることに立ち返り、園長先生方と議論を重ねてまいりました。保育園とも懇談の機会を持ち、命・心を預かることへの使命は変わらないことを確信いたしました。



12協会長に聞く2年間の振り返って

また、市のアンケートと並行して、幼稚園の全保護者に向け「幼稚園でいい」とどれほどの方が選んでくださっているのか、就労も含めて独自のニーズ調査アンケートを作成し、協力を求めました。制度に翻弄されることにはなりませんが、それを契機に個人の園という枠を超え、幼稚園教育の意義、幼稚園のあるべき姿の意味を確かめ合うチャンスを得ました。子どもたちの笑顔、親の笑顔、教師の笑顔のために今できることから始め、「心を尽くして」いくことに価値があると信じ、茅ヶ崎協会は共に歩んでまいります。

また、日頃からの県連の代表の先生方のご尽力には、頭が下がる思いでいっぱいです。会長という役を与えられたからこそ、その姿に触れることができ、改めて感謝申し上げます。

今後ともご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ピンチはチャンス

一般社団法人
相模原市幼稚園協会
協会長 金子英行

それから協会一丸となって物事に取り組んで行く所存であります。



子ども・子育て三法に揺れる

湘央地区
私立幼稚園協会
協会長 大澤一之

振り返るとこの県連役員の在任二年間は国により進められた「子ども・子育て三法」に振り回された期間であったと思います。先人が百年以上も掛け難難辛苦の道程を経て築き上げた学校教育としての「幼稚園」の改革を短期間で無理矢理、

強引に推し進めることに不快な思いを抱くのは私だけではないでしょう。

特に幼稚園と保育所の一本化の「こども園構想」は強い不安感を持たざるを得ません。また、行政の担当者が文部科学省・厚生労働省に各々分かれ教育的要素（ニーズ）が高い幼稚園と福祉的要素（ニーズ）の高い保育所を一つに纏める「こども園」構想は当初から違和感を覚えましたが、また、これに関わる法整備に至っては迷走を繰り返し、複雑極まりない記述表現で理解に苦しみます。国家の根幹ともいえる大切な教育・保育をもっと時間を十分かけて検討する必要があるのではないのでしょうか。現在、折角まとまりをみせている県連の各幼稚園の考え方や方向性がばらばらになり、迷いを見せている様子も感じられます。

平成二十七年に向けて、我々もしっかりと前を見据えて行動する必要がある、教育の原点に立ち返り、子どもたちの幸せな未来のため協会一丸となって邁進していきたいと思います。



共に力を出し合って

小田原
私立幼稚園協会
協会長 平松章子

二年間が終わろうとしています。はじめの一步を協会全体としてあゆみ始め、各々の持ち場で互いに支え合いながら機

能をし始めました。

子育て支援という大きなテーマではあるものの、その件については、各園頭を抱えているようです。しかしながら各園の思いは一つ。幼児教育を大切にしたいと強く思っているものの、今後どのような展開がみられるかわからない状況です。型はどのようなふうにも大切にしたことは、各園の私学としての建学の精神だと思えます。今、人として成長するための大切な時を助けている幼児教育をいかにしていくか。しかし、いつでも子どもたちを中心に置き、保護者のことも大切に考える必要性もあります。今後協会全体がどのような形になろうとも、つねに「子ども中心」にあたたかく見守りながら、小田原協会として、出会っている子ども・家族のために力を出し合って歩んで行きたいと思っています。



多忙な四年間

相和私立幼稚園協会
協会長 磯川 浩

時が経つのは早いもので、相和私立幼稚園協会長となって二期四年が経とうとしています。この四年間は幼稚園業界において、色々の問題があり、幼稚園を取り巻く環境が大きく変化し、幼稚園教育の重要性と責任を感じた期間でした。特に政権が変わり、幼保一体化が提唱され、

幼稚園業界や保育業界もこの先どのように進めていったら良いか、悩まされました。やっと政府が進めている幼保一体化の「子ども・子育て関連三法」も成立し、二十七年より施行する事が決まりました。しかし、骨子がまだ細かく決ま

っていません。各園でも、どの方向を選択したら良いか分からず迷っていますし、選択する道によつては担当行政が県から各市町村に変わる事になってしまします。いつもお話をしているように、相和私立幼稚園協会は、四市一町（大和市、綾瀬市、座間市、海老名市、寒川町）の協会で、幼児教育に関する研究・研修、情報交換会等を開催していますが、今まで以上に四市一町と連携を深め協会の為に働かなければならず、大変難しい地域でもあります。

また退職基金財団と県幼稚園連合会の公益法人化の問題もありました。そして、日本私立幼稚園連合会では、私立幼稚園教育のより良い充実を求め、国政、行政分野に多様な支援・協力を要請していたところ、政府・与党で幼児教育無償化への連絡協議会が設置されるとの報道があり、当協会でも「幼児教育を中心とする幼児教育の無償化」実現に向けて、三月及び五月に保護者の皆様をお願いして署名活動も行いました。

県連に行く機会も多くありましたが、二十七園の協会の皆様の協力で、毎月の園長会の参加も大変多くなり、責任の重さを感じつつ感謝申し上げますと共に、こ

では、協会長を二期務めるのが慣例ですので、ちょうど半分の任期を終える所でもあります。

さて、この二年間を改めてふり返ってみたいと思います。一年目は、協会長としての役割の多さに戸惑いながら、その役割をこなして行くのに精一杯で大変短く感じました。協会内部の役割ではなく、行政関係の会議や委員会、県連の理事会等、内容を理解するだけでも大変で、これで良いのかと自問自答しながらの一年間でもありました。また私立幼稚園協会の社会性の大きさも実感しました。そして二年目は、多少の経験の蓄積があり、自分らしさを出していかなければと感じている処です。優先順位を決め効率よく対処しなくてはならないと痛感しています。

さて協会内のこの二年間はやはり「子ども・子育て新システム」についての話題が中心であったと思います。今、私立幼稚園にとつては大変な時期だと思えます。決して運命共同体ではない幼稚園の集まりである幼稚園協会の存在意義については、様々な考え方あるとは思いますが、こうした時にしっかりと力を発揮する事も協会の大きな役割の一つであろうと思っています。やはりこうした時の為に、常日頃から充実した協会にしていける事が大切であると思います。まだまだ課題が山積していますが、これからの協会加盟園の園長・設置者の先生方の協力を得ながら協会の役割を果たしていきたいと思います。



幼稚園協会を楽しもう

厚木地区
私立幼稚園協会
協会長 和田貴樹

協会長として一期目の任期の二年間が間もなく終わろうとしています。当協会

研修事業部

連続研修会「園内研修」報告
子どもの観方に気づき保育を深める

新大船幼稚園 澤井 政 巳

今、多くの園で同僚性や組織としての保育の質の向上を目指して園内研修への関心が高まっています。そこで、今年度も大妻女子大学教授、岡健先生を講師にお迎えして、一月十一日・十八日に連続講座を実施しました。

一日目の講座では、初対面の人と和やかな雰囲気で活発な議論ができるよう擬似的に話し合いの「場」をつくるアクティビティ「偏愛マップ」をおこないました。学び合う土壌をつくり各

自が意見を持つこと、意見を発言すること、意見を共有すること、さらに経験の浅い先生には考える時間を与え、内容が見えるようにボードや付箋紙を使う方法など、保育者の同僚性やチームワークを高めるファシリテーションの基礎を学びました。

二日目は、各自持参したお便りや写真にグループの仲間が付箋紙で「吹き出し」をつけていくアクティビティをおこない、子どもの思いや育ちをどのよ



うな「まなざし」で見ているかを話し合いました。その後の講義では、子どもの観方（「虫の眼」、「鳥の眼」）を意識化して育ちへの意思に気づき、そこから子どもに必要な環境構成をおこなう保育のプロセスや、子どもの育ちを保護者に伝えるポイントを学びました。

園内研修においては、園長先生の立ち位置で伝達型会議になるのか、創発型会議になるのかが決まります。

参加された先生方の役職は様々でしたが、学び合う土壌づくりやファシリターの役割を学ぶことができた充実した研修となりました。

研究部

公開保育コーディネーター養成講座を終えて
保育の質の向上は学び合いから

杉之子幼稚園 山崎 和子

全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催の公開保育コーディネーター（評価者）の全過程が、一月二十四日・二十五日の京都をもって終了しました。

これは保育所の第三者評価がマニュアルに沿った評価で外部監査的であり、幼児教育の特性を十分に理解した評価者が評価を行うものではないこと、さらに実際の保育内容やプロセスについての評価は殆ど無いという現状を踏まえて、幼稚園では公開保育を実施し、

コーディネーターや参加者の外部の視点を導入し、公開園が自園の良さや課題を見つけていくことを第三者評価としていくというものです。

具体的には、まず公開保育を実施し保育後に参加者が感じたその園の良さや共感できること、疑問に感じたことについて、あるいはまた実施園が自園の課題と考えている点について参加者と共有し意見交換することにより、その園の優れた取り組みや改善の方向性

平成二十六年年度私学振興費の概要について

振興部長 武藤 保之

平成二十六年年度県予算「私学振興費」の概要について、二月十二日県庁本庁舎に全私学の担当者が集まり、県当局より予算案編成について、来年度は、かながわ未来創造予算『いのち』にこ

だわり、『成長戦略』と『財政健全化』を同時に加速との説明を受けました。命を守り、次世代の「こども」を育む政策を加速する予算編成にあたり、緊迫した財源の中で幼稚園の当初予算

は対前年比一〇〇・五％を確保する事が出来まし

た。
その内容を見ますと、次世代を育む政策に基づき成長戦略に対しての予算編成を行い、預かり保育や地域開放園の増加に伴う予算増、さらに特別支援教育の子どもが増えている中で特別教育費補助が対前年比一一・二・八％となり、まさに時代を先取りした当初予算編成となった感じがいたしました。

このような成果は県連合会だけでは成し得ないものであります。教育振興連盟や多くの応援してくださる議員の方々並びに県当局の皆様にご感謝申し上げます。

法律相談事業報告とお知らせ

県連の法律相談顧問契約事務所の名称、代表電話番号が変わりました。

R&G横浜法律事務所

横浜市中区住吉町1-2(スカーフ会館3階)
TEL.045-671-9654(専用) 045-671-9510(代表)
県連担当窓口 西村 将樹 弁護士



ご挨拶

早春の候 皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、既にご承知のことと存じますが、当事務所では平成24年12月より、県連との間で法律顧問契約を締結し、法律相談を担当させていただいております。

当事務所には、現在総勢12名の弁護士が所属しておりますが、各弁護士の自由を尊重しつつ、事案の処理においては迅速かつ正確に対応すべく、知識・経験・ノウハウ等が共有されていることを前提に、必要に応じてチーム内で合議を行う等して組織力の強化を図っていることが特色の法律事務所です。

また、取り扱う業務としては、訴訟事件や交渉事件が中心にはあるものの、訴訟等を回避したい法人や団体等に対して、紛争を未然に回避するための方策について助言する等の予防法務にも力を入れています。

これまでも各幼稚園からご相談をいただいておりますが、より法律相談を活用していただければと思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

		H24.12 ～25.3	H25.4 ～25.12	合計
相談内容	労 務	2	8	10
	経 営	1	4	5
	保護者	2	4	6
	事 故	1	0	1
	その他	2	1	3
合 計		8	17	25

平成26年度当初予算(案)私学振興費の概要

(幼稚園関係抜粋)

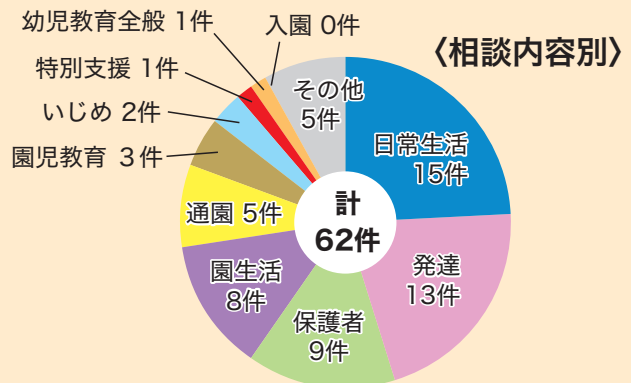
事 業	平成26年度	対前年比	幼稚園関係摘要
	(千円)	(%)	
経 常 費 補 助(一 般)	16,718,471	100.5	園児単価：国の基準単価 176,205円 県の割戻額 142,236円 前年度比較 1,795円増
預かり保育推進費(特 別)	716,210	104.0	補助対象園数の増(5時間以上) 151園←125園(26園増)
地域開放推進費(特 別)	188,400	107.2	補助対象園数の増 297園←282園(15園増)
私立幼稚園特別支援教育費補助	1,622,880	112.8	補助対象園児数 2,179人(205人増)
私立学校施設耐震診断調査費補助(全学種)	15,000	50.7	耐震診断未実施建物の減 補助限度額 1,000千円(補助率2/3以内)
私学団体助成費(全学種)	6,200	100.0	私学4団体の研修事業費等に助成
その他の(全学種)	1,012,220	154.3	認定こども園移行耐震化工事費補助 794,639千円 私立幼稚園緊急環境整備費補助 204,063千円

平成25年度教育相談事業報告

平成 25 年度教育相談事業の相談実績をご報告いたします。

(H26. 2. 1現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電 話	2	5	7	2	0	6	13	2	0	1	-	-	38
面 談	2	3	3	4	0	3	1	2	1	0	-	-	19
出 張	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	-	-	5
計	4	8	10	7	1	9	14	5	2	2	-	-	62



相談の申し込み

電話にて公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会事務局へ申し込みください。

TEL 045-440-3210

研 修 会 報 告

研究部主催

研修事業部主催

開催日	研 修 名	会 場	講 師	テ ー マ	参加者数
12/ 4(水)	湘央オープン講座	二宮町民センター	井口 眞美 先生	造形活動の実践から、子どもの育ちと教師の援助や環境構成を考える	68人
1/11(土)	連続講座 園内研修	かながわ ようちえん会館	大妻女子大学 教授 岡 健 先生	●同僚性の足場をつくること ●こどもの観方に気づくこと ●保育を共に深めること	41人
1/18(土)					37人
1/25(土)	幼稚園教育経営 研修会	かながわ ようちえん会館	講座Ⅰ 内閣府 子ども・子育て会議委員/ 淑徳大学総合福祉学科教授 柏女 霊峰 先生	子ども・子育て支援新制度と保育	158人
			講座Ⅱ 内閣府 子ども・子育て会議会長/ 白梅学園大学子ども学部教授 無藤 隆 先生	子ども・子育て支援新制度の目指すもの	
1/28(火)	102条園講演会	かながわ ようちえん会館	私学振興課・次世代育成課職員	子ども・子育て支援新制度への移行について ・子ども・子育て支援新制度の概要と102条園 への適用について ・102条園への私学助成等	53人
2/ 4(火)	後継者育成研修会	かながわ ようちえん会館	聖愛幼稚園園長/都私幼連絡総務委員 野口 哲也 先生	教職員のSNSの有用性と危険性	32人
2/ 6(木)	横浜オープン講座	かながわ ようちえん会館	福音館書店 こどものとも編集長 関根 里江 先生	どのように絵本がうまれるか	34人
2/20(木)	公開研究保育 【八幡橋幼稚園】	八幡橋幼稚園	玉川大学 准教授 大豆生田 啓友 先生	私立幼稚園の“教育の自由性” 保育の質の高さを永続していくために	40人

2月14日(金)に開催予定でした研究部主催の「若手後継者のための保育勉強会」は大雪の影響で3月10日(月)に順延となりました。

平成25年度教育経営研修会報告

総務部次長
仁藤 一成

～新制度に向けての理解を深める～

1月25日に、教育経営研修会が南雲私学振興課長を来賓にお迎えして、開催されました。今後の研修会は、幼児教育の形に関わる重要課題であり、多くの先生方にご参加を頂きました。

主題は「私立幼稚園の明日への展望」と言う事で、基調講演に、内閣府子ども子育て会議委員の柏女霊峰先生、講座には、同会議会長無藤隆先生よりお話を伺いました。



柏女霊峰先生

柏女先生には、保育・福祉の視点より制度設計等の説明をして頂き、移行に際しての質疑に対して、詳細にお答え頂きました。

講座では、無藤先生より私立幼稚園の立場から、政務の状況、制度への心構え・考え方を伺いました。

最後に、意見交換会で南雲私学振興課長よりお言葉を頂き、充実した研修会でありました。



無藤 隆先生

平成25年度後継者育成研修会報告

柿の実幼稚園
小島 哲史

平成26年2月4日(火)、ようちえん会館にて後継者育成研修会が行われました。聖愛幼稚園園長・都私幼連絡総務委員で在られる野口哲也先生を講師にお招きして、「教職員のSNSの有用性と危険性」～幼稚園トップが知っておくべきこと～をテーマにご講演頂きました。

SNS(Facebook、LINE、Twitter等)で職員間の情報共有や保護者へ向けての発信が迅速に出来る一方で、情報漏洩のリスクが存在します。一度情報が漏洩してしまうと、ネット上にキャッシュが残ってしまい、完全に削除することがほぼ不可能なのが現状です。SNSをよく利用している方でも、情報がどこまで発信されているかをよく把握せずに利用してしまっています。情報漏洩を防ぐ為には、管理職に在るものが、ある程度の知識を持つておく必要があります。10年前と比較すると、ITで出来ることが飛躍的に増え、コストも圧倒的に低くなっています。利便性が高くなる程、危険性も高くなることを理解し、各園の事情に合わせたIT環境を考えることが必要とされています。



編集
後記

僕の幼稚園には森があって、そこにはたくさん野鳥が生活しています。1月のある朝のことでした。森の中から木をつつく軽快な音が聞こえてきました。コゲラです。コゲラが木をつつき始めたのです。冬の間なりを潜めていた鳥たちが、春の訪れを感じて活動を始めたようです。メジロの姿やウズラの親子の姿も見かけました。鳥た

ちのさえずりにもぎやかになってきています。ところで先月、亀戸天神の「鶯替え神事(うそかえしんじ)」に出かけ、「鶯鳥」のお人形を授かってきました。立春を前に、鶯鳥を授かることで凶事を嘘に替え吉事に替えるという江戸時代から伝わる神事です。春はもう目の前です。吉事に溢れた素敵な春が待ち遠しいかぎりです。

広報室 藤原伸介



From the Public Relations Section